「自然ってどんな色？」と聞かれたら、何と答えるだろう？　たいていの人は、緑色と答えるにちがいないし、実際みんなそう思っている。だから「水と緑の町づくり」などという標語がそこらじゅうに掲げられているのである。

目に入る「自然」が一望の砂漠の国でも、水と緑はオアシスの象徴であり、人々はそこに安らぎを感じる。だから水と緑は、人間という動物にもともとしっかり結びついているものであるらしい。

たぶんそういう理由からだろう、かつてはずいぶんこっけいなこともおこなわれていた。道路を作るので、草木の緑におおわれた丘に※切り通しを作る。新しい道の両側は、赤茶けた土そのままの崖で何ともうるおいがないし、荒れた感じがする。それにいつ土が崩れてくるかもわからないから、がっちりとコンクリートでおおってしまう。そうなると、ますます味気ない。そこで、とにかく緑にしようということで、コンクリートを緑色に塗ったのである。

確かに少し遠くからは緑にみえる。けれど、※所詮はペンキで緑色に塗っただけである。人間の感覚はこんなことでは欺されないはずだ。

※注　切り通し山や丘を切り崩して造られた道。
所詮…つまるところ。結局。

問　――「こっけいなこと」が指す内容を十五字以内で答えなさい。

光塩女子学院中等科二〇一〇年度第２回試験
偏差値４５（２０２２年日能研Ｒ４）
難易度Ａ